

Caution : Don't mark on the model and other components with pen or leave printed materials contacted on their surface.

Ink marks on the models will be irremovable.

注：モデル表面に印刷物などが直接触れないようにしてください。
樹脂表面にインクが吸収されて消えなくなります。

Instruction Manual

取扱説明書

Contents／目 次

マーゲンファントム ----- Page1 ～ Page2

回転装置 ----- Page3 ～ Page4



■特徴

患者さんから摘出した早期がん病巣、潰瘍など1種類の病変を型取りし、胃の内壁に取り付けてあります。

内部にバリウムを流して透視装置で画像を確認することができます。

■構成

- ・胃部 膨張剤を入れた状態になっており、病変を備えています。
- ・レリーフ 実物から型取りした7種類の病変をレリーフにしています。

■ファントム撮影の準備及び手順

ファントム上面のねじ栓をあけ、約70mlのバリウム溶液を流し込みます。

上面、側面のねじ栓がきっちり閉まっている事を確認した後、ファントムを持ち上げ、胃の内壁全面にバリウム溶液が付着するように上下、左右に動かします。

一様にバリウム溶液を付着させたら、胃底部にバリウム溶液がたまるようにして、ファントムを撮影装置のベッドの上に置き撮影を行います。このときベッドは水平状態にして下さい。

■撮影後のファントムの手入れ

撮影後は直ちにバリウム溶液を排出し、排出した水が白くにごらなくなるまで、水道水で胃の中を洗浄して下さい。

胃の外部に付いたバリウム溶液や水をふき取り、ねじ栓をして保管して下さい。

注意事項

- ・本ファントムは、硬質のエポキシ樹脂でできています、落下によるファントムの破損、ひび割れのおそれがありますので、ていねいに取り扱ってください。
- ・ファントム表面の汚れは、中性洗剤で落として下さい。材質の損傷をまねきますので、溶剤類は使わないで下さい。
- ・ご使用にならないときは、ケースに入れて保管して下さい。

ファントムの素材について

製作時には万全を期しておりますが、樹脂材料の性質上やむなく成形品内に多少の気泡が入っております。あらかじめご了承下さい。

材質	胃部はエポキシ樹脂
寸法	170×150×400Hmm
重量	約2Kg

マーゲンファントム腫瘍配置図

ファントム前壁
後→前壁

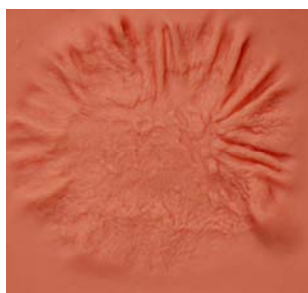


ファントム後壁
前→後壁

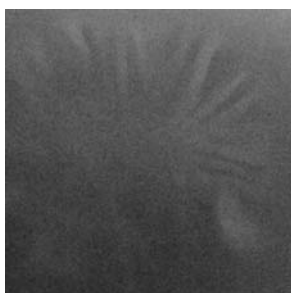


○の部分に下記とおなじ形状の腫瘍が貼り付けてあります。

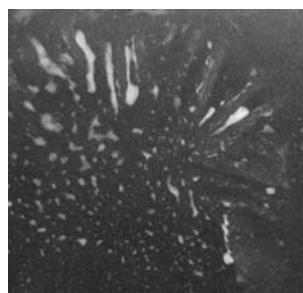
模型形状



透視画像



バリウム添付画像



URL ● <http://www.kyotokagaku.com> e-mail ● rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

■本社・工場

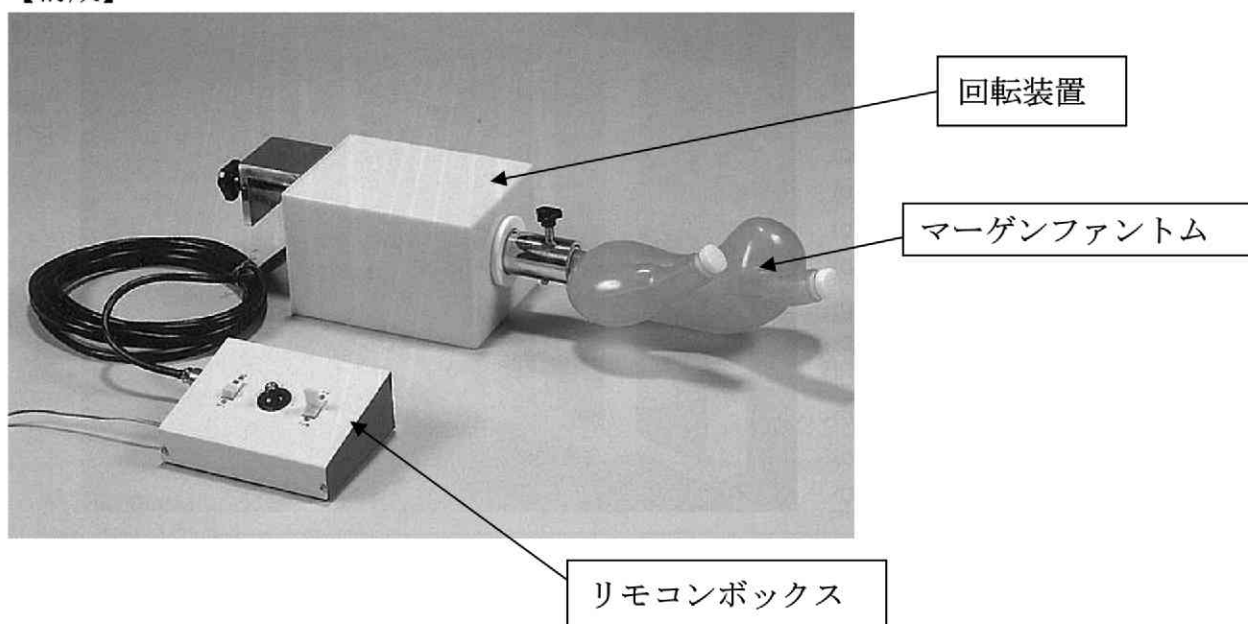
〒612-8388 京都市伏見区北寝小屋町15番地
TEL : 075-605-2510 (直通) FAX : 075-605-2519

■東京支店

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目26番6号
NREG本郷三丁目ビル2階
TEL : 03-3817-8071 (直通) FAX : 03-3817-8075

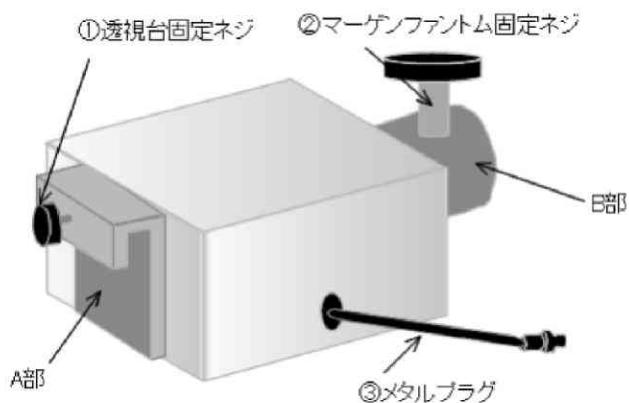


【構成】



この回転装置を使用することにより、X線透視台の足固定台にマーゲンファントムを取り付けることが可能になります。回転装置に取り付けられたマーゲンファントムはリモコンボックスにより回転数、回転方向を遠隔操作で変更することが可能となります。

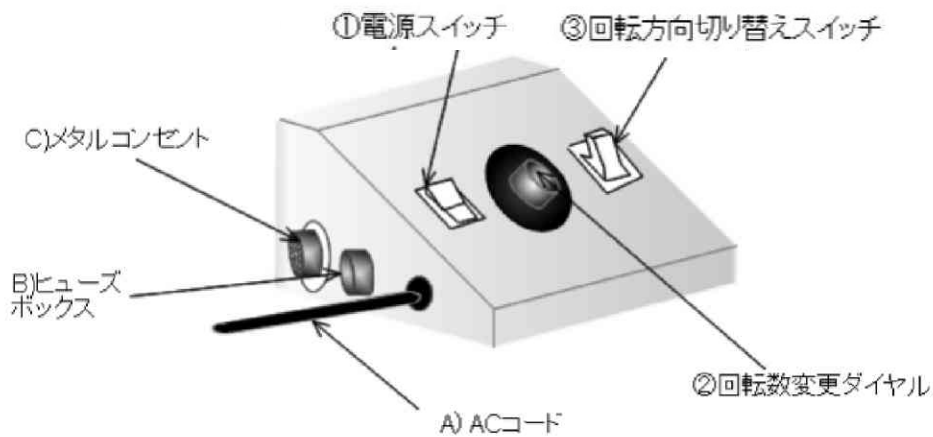
【回転装置を透視台に取り付ける】



1. ①透視台固定ネジ を緩め A部を透視台に差し込みます。
2. ①透視台固定ネジ をしっかりと締めます。
3. ②マーゲンファントム固定ネジ を緩め B部にマーゲンファントムを差し込みます。
4. ②マーゲンファントム固定ネジをしっかりと締めます。
5. ③メタルプラグをリモコンボックスのメタルコンセント*に差し込みます。

*次ページ参照

【リモコンボックスとの接続及びスイッチの機能】



1. 回転装置の ③メタルプラグ を C) メタルコンセントに接続します。
2. A)AC コードを 100V コンセントに接続します。
3. ①電源スイッチ を【ON】の方向に押します。

マーゲンファントムの回転数*は ②回転数変更ダイヤル で変更できます。
まー下ファントムの回転方向は ③回転方向切り替えスイッチ で変更できます。

*回転数は 10 回/分から 3 回/分の間で変更可能です。

**Caution**

Don't mark on the model and other components with pen or leave printed materials contacted on their surface.

Ink marks on the models will be irremovable.

**注意**

モデル表面に印刷物などが直接触れないようにしてください。
樹脂表面にインクが吸収されて消えなくなります。

- ・本製品についてのお問い合わせや不具合等ございましたら、お手数ですがお買い上げの販売店、もしくは下記（株）京都科学まで御連絡ください。

 KYOTO KAGAKU co.,LTD

URL ● <http://www.kyotokagaku.com> e-mail ● rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

**■本社・工場**

〒612-8388 京都市伏見区北寝小屋町15番地
TEL : 075-605-2510 (直通)
FAX : 075-605-2519

■ Main Office and Factory

15 Kitanekeya-cho Fushimi-ku Kyoto 612-8388, Japan
Telephone : 81-75-605-2510
Facsimile : 81-75-605-2519

■東京支店

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目26番6号
TEL : 03-3817-8071 NREG本郷三丁目ビル2階
FAX : 03-3817-8075

■ LA Office (for USA , CANADA and Mexico customers)

3109 Lomita Boulevard, Torrance, CA 90505, USA
Telephone : 1-310-325-8860
Facsimile : 1-310-325-8867

安全にお使いいただくために、以下の指示を必ず守って下さい。



警告

誤った取り扱いを行った場合、使用者が怪我・火傷を負う、および火災や感電・漏電の可能性が想定される内容を示しています。



漏電・感電の危険があります



火災・火傷の危険があります

●付属の AC アダプター・電源コードを使用する

- 付属以外の AC アダプター、電源コードをご使用に成られると火災や感電の原因となり大変危険です。
- 付属の AC アダプター・電源コードは日本国内専用です。AC100V の電源で使用して下さい。
- 付属の AC アダプター・電源コードを他の製品へ転用しないで下さい。



●電源コードを濡らさない・傷つけない

- 以下の行為は行わないで下さい。
 - 無理に折り曲げる
 - 重いものを載せる
 - 液体で濡らす
 - 濡れた手で抜き差しを行う



●アース線をとる



写真の様な形状のプラグの場合は必ずアース線対応コンセントご使用下さい。



●電源プラグを確実に差し込む

電源プラグについた埃は定期的に取り除き、電源プラグが根元まで確実に差し込まれていることを確認して下さい。



●使用時以外は電源プラグを抜く

使用しない期間は電源プラグを抜いてください。また、抜く際はコードでなくプラグ部分をつかんで抜いて下さい。



●火器類を近づけない

本体・コードの変形や変色、電気系統のショートなどの原因となります。付近に火器類のある環境でのご使用はお控え下さい。



●分解・改造しない

不具合の際はお客様判断での分解・改造は絶対に行わず、お買い上げの販売店もしくは(株)京都科学までお知らせ下さい。



異常が起きたら ●すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

煙が出る・変な臭いがあるなど異常な状態に気がついた場合は、速やかに上記の通り対処を行い、お買い上げの販売店もしくは(株)京都科学までお知らせ下さい。

・ご不明な点は、お買い上げの販売店、もしくは下記 (株)京都科学まで御連絡ください。



株式
会社

京都科学

URL● <http://www.kyotokagaku.com>
e-mail● rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

■ 本社・工場

〒612-8388 京都市伏見区北寝小屋町15番地
TEL : 075-605-2510 (直通)
FAX : 075-605-2519

■ 東京支店

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目26番6号
NREG本郷三丁目ビル2階
TEL : 03-3817-8071 (直通)
FAX : 03-3817-8075

[2019.01]